

## ◎ ITCアエロスペース、事業拡大で社債を発行 中山社長談「世界の航空機市場7兆円はリース」

航空商社の㈱アイ・ティー・シー・アエロスペース(本社:東京・中央区、設立:1985年7月、資本金:1,000万円、中山智夫社長)は、航空機の輸出入・販売事業拡充のため社債を発行することになり22日、募集要項を発表した。内容は次のとおり。

▽社債募集総額:4,900万円。▽社債の種類:利付少数人数私募債とする。▽社債の金額:100万円。▽社債の利率:年6%。▽発行価格/償還金額:額面通り。▽申込期間:平成18年8月20日より同年9月25日までとする。▽募集方法:直接募集、▽申込取扱場所:東京都中央区八丁堀4-11-13 金谷ビル5階 株式会社アイ・ティー・シー・アエロスペース。

ITCアエロスペースは、1989年4月にリース部門として(有)アイ・ティー・シー・リーシング(社長:中山智夫氏兼任)を設立。ITCアエロスペースの06年度売上高は5億8,500万円(前年度比453%)、営業利益9,865万円(同156%)を達成、ITCリーシングも直近の8ヵ月で売上5億2,800万円(同408%)、営業利益4,600万円をあげ、中山社長はITCグループの事業環境と目標に次の4項目を挙げている。

(1)航空機は極めて安定した国際的な投資商品=資産である。

(2)2000年代の世界の航空機旅客数は飛行距離換算で3兆km、2005年は3兆7,500億km、5年で25%増となり、安定した旅客数の増大が今後とも見込める。

(3)世界の新規・中古航空機市場は11兆円で、うち中古機市場は3兆円。このうち70%(7.7兆円)がリース、ファイナンスの対象となる。市場の主要プレーヤーは100社。一社当たり運用資産770億円といわれる。

(4)ITCグループは2010年に売上100億円・運用資産240億円。2015年には売上700億円・運用資産1,600億円規模の世界の中堅航空機リース企業を目指す。

**ITCの最近の業績**=(1)イタリアのジェットエキスパート社と共同で、今年7月上旬にタイの新興航空会社、スカイ・スター航空向けにボーイング767-222EM型2機のオペレーティング・リースを契約し、11月中旬引き渡し予定。契約期間は5年で更に延長可能。(2)ロシア連邦のサハリン航空からボーイング737-200A型5機の10年間リース契約を受注。初号機は昨年8月、2号機は今年7月26日に引渡完了。リース収益が順調に増大・推移している。